

半世紀以上前の世界の表情

「世界文化シリーズ」（昭和 41=1966 年発刊）からの抜粋

本年（2023 年）のゴールデンウィーク中に部屋の整理をしました。処分した定期購読写真誌の中に 1966 年（昭和 41 年）に発刊の「世界文化シリーズ」がありました。2 年間で計 24 冊。大学を卒業し 25 歳で NHK 学園高校で働き始めた年。今から半世紀以上も前の写真誌ですが海外情報がまだ少なかった時代にとっても斬新な写真を掲載していました。文章もとてもよく書けていて後に聖教新聞の記者になってからもずいぶん参考にさせてもらったものでした。

この抜粋の記録は系統立てて整理されてはいませんが、時代は移っても変わらない街の表情や庶民の姿にホッコリします。この写真誌が影の縁となっていたかもしれません。自分もこの中に出てくる国や街の半分以上を特派員としての仕事と定年後の文学紀行で訪れてきたのに感慨を深くする思いです（訪問国は計 43 か国・地域）。

記事の中には現在とは異なっている部分もかなりあります。最初の部分では 50 年以上も前の国際航空事情に驚き、最後の部分では現在、問題山積の北朝鮮の体制を褒めちぎっているのに時代の変遷を感じさせられるところです。

「せっかくの記録を残しておきたい。いつか自分の書く記事の参考にもしたい」との思いもあってホームページに留めるようにしました。読者の皆さまにもご参考になるところがあれば幸いです。

フランス

- ◇ 東京——シアトル アンカレッジ経由で 18 時間 片道 1 等 453,600 円、エコノミー 281,880 円（1 \$ = 360 円）
- ◇ 東京——パリ 北極回り 19 時間。1 等片道 405,250 円、エコノミー片道 243,950 円（1 ドル：4.94 フラン）
- ◇ パリに着いてまず勧められたのは、ワインかコニャックを飲んでぐっすり眠ることである。パリと東京には 8 時間の時差がある。パリで日の高い午後でも、日本ではもう夜。目覚めるとパリの夜はイキイキと息づいていた。
- ◇ セーヌ川はパリの生命である。それはパリの心臓部を貫き、この町に限りない美しさを添えるばかりか、川のほとりでは青年男女の熱い口づけがときには数時間にも及ぶ。
- ◇ 国際都市の恥じず、皮膚の色には全然こだわらないからパリは住み易い。
- ◇ 何度もの革命やレジスタンスの歴史を持つ。画一主義や人間の機会化を嫌って、個人の自由と創意をつとめて重んじる。

イギリス

- ◇ ロンドンは大都会の中では最もわかりにくいまちとして通っている。市内パトロールのお巡りさんすらわかっていない。道を聞くとすぐに地図を出して調べる。
- ◇ 素顔のロンドン——伝統がことさら重んじられている。黒い建物の間を赤いバスが走

っている街だ。路面電車のないロンドンではバスは隅から隅まで走っている。

- ✧ ロンドンっ子はせかせかしていることもあるが、ぶつかっても、足をふんずけられても決してけんかにならないところはさすがだ。両方で「エクスキューズミー」といい合っている。
- ✧ イギリスの平均気温は日本の5月中旬頃と同じ。だから上着を着ている。冷房装置など必要ない。こうもり傘はアクセサリだ。雨が降ってもささない。唯一の使い道はタクシーを呼ぶときに差し出すぐらいである。
- ✧ イギリス人が子供をしつけるとき、厳しく教え込むのは、人に迷惑をかけてはいけないことであり、礼儀作法である。
- ✧ お茶はイギリス人の生活から絶対に切り離せないもの。パブ。シェイクスピア。王室。
- ✧ イギリスの田舎の風景は常に「田園の風景」である。
- ✧ 英国国歌——「God Save The Queen——神よわれらが女王（王）を守らせ給え」。国旗のユニオン・ジャック——イングランドの白地赤十字、スコットランドの青地、アイルランドの白地赤の三つを組み込んだもの。イギリスを構成する三国を平等に表している。

ドイツ

- ✧ 数々の古城と伝説にくるまれたドイツの母なるライン川は、ドイツ文化の揺籃の地である。詩人ゲーテもハイネも音楽の天才ベートーベンも、みんなこのラインの産湯につかった。そして今日もラインは悠々と流れている。
- ✧ どんな小さな村にもその村のビールがある。

イタリア

- ✧ フィレンツェ＝イタリアで最も美しい街。芸術と文化の宝庫にふさわしいたたずまいをもつ優雅な古都である。

スカンジナビア

- ✧ 北欧の気候はメキシコ湾流のおこぼれを受けて緯度の割には温かい。自然は変化に富み、大きくひっそりとしていて悠久の想いを誘う。空は曇りがちで光が乏しく、海や湖の色も鉛色のことが多い。
- ✧ 人々は親切で、道を聞けば手を取るように教えてくれる。デンマーク人が一番親切で人懐っこいように思われる。(2010年にデンマークを訪問したときアンデルセン博物館前で女子高生たちに声をかけられ写真を撮ってあげた)
- ✧ デンマークは広さが九州くらいの農業の国。小村にも不調和なほど立派な教会がある。
- ✧ 自動車道の傍らに自転車専用の道路がある。オランダと共に自転車天国となっている。
- ✧ ハムレットの古城コロンボー城（エルノシア城）
- ✧ スtockホルムは「湖上の白鳥」と言われている都会。
- ✧ 北欧の社会保障と施設の充実ぶり。
- ✧ 冬の夜長と夏の白夜。

オランダ

- ✧ 海に挑戦する王国オランダ。九州よりやや小さい。5分の1が海面より低い。ポルダー→詩情豊かな風車の国。自転車は下駄みたいなもので「歩き出す前に自転車乗り方を

教わる」とまで言われる。

- ◇ ダッチアカウントの合理性。4カ国語を話す国民。(英・仏・独・蘭語)
- ◇ アムステルダム——アンネ・フランクの隠れ家がある。
- ◇ 日本は17世紀～19世紀の鎖国の中でオランダ人と接触。杉田玄白の「蘭学事始め」

ベルギー

- ◇ 優美な小パリ・ブリュッセル。大国の間に挟まれヨーロッパの歴史と共に生きてきた。世界でも早く死刑を廃止。ブルッセルシンボル市庁舎前の小便小僧の愛きょう。

スペイン

- ◇ ブーゲンビリアとゼラニウムの花々に彩られた白壁の家並みが陽気なスペインの詩を語る。
- ◇ スペインを一度訪れた人は、必ずもう一度行きたくなる。二度訪ねた人は決まって三度目の旅がしたくなる。スペインは不思議な魅力を持った国である。
- ◇ まぶしい陽光と褐色の大地はこの国に住む人間を情熱的にする。強い光は濃い影を作る。

スイス

- ◇ 絵そのままの風景がそのままの色で目の前に現れる。山は美しく水は清く、エメラルドのような湖。
- ◇ 時計、チョコレートも本場。原料はアフリカから輸入。3カ国語が正式な国語。それにロマンシュ語が加わった。
- ◇ チューリッヒではドイツ風の薄暗い部屋でビールを飲み、ジュネーブでは明るいフランス風のカフェのテラスで白ブドウ酒をのむ。

東ヨーロッパ

- ◇ 美しい石の都ブラハ。
- ◇ ヨーロッパの東洋人ハンガリー
- ◇ 太陽と神話の国ギリシャ——光の豊かさと強さ
- ◇ モスクワの宮殿さながらの地下鉄

豪州

- ◇ オーストラリア・ハズバンド＝亭主族が女房族にうまく飼育されている。日本の戦争花嫁は大好評。
- ◇ シドニーが明るいアメリカ的な近代的な都市に対して、メルボルンは落ち着いたイギリス式の雰囲気を持っている。
- ◇ 保守的なニュージーランド：ニュージーランド・ハズバンドも。厳守されるティータイム。

ハワイ

- ◇ ハワイは日系人が支えている。ハワイに遊ぶ人はこの島のムードに思いっきり酔った方がよい。世界の雑多な人種や民族の寄り合い世帯。人種的な偏見は少なく太平洋の楽園の名にふさわしい。

イラン

- ◇ イラン＝ペルシャ。ペルシャじゅうたん、ペルシャ猫・・・この地が世界で最古の文

明の発祥地。

インド

- ◇ イギリス人の手によって建設されたニューデリーは閑静な首都である。一方、ジャムナ川に沿ったデリーは喧騒の街だ。牛がのそのそと歩きまわり、通りには物売りや乞食がたむろしている。

アメリカの各都市

- ◇ ニューヨークの街には公衆トイレが見当たらない。「トイレを見つけたら必ずしておけ」というのが在住日本人のモットーだ。
- ◇ 国連のある 7.3 ヘクタールの地域は、ローマ市内のバチカンのような存在で、治外法権を持った独立国である。いや、国というよりはそれは世界そのものかもしれない。
- ◇ 国連の公用語は英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語。
- ◇ アメリカの中の東洋、サンフランシスコ。しっとりとしていてきれい。霧の名所としても有名だ。西部第一の芸術と文化の都である。
- ◇ シアトルは森と湖の都である。

メキシコ

- ◇ メキシコシティ——熱帯といっても海拔 2000 メートルのメキシコ市は、夜になると肌寒い。からくて熱いトルタスを食べると身体がほかほかとしてくる。アベックはしっかり肩を組んで一つのトルタスをかじり合っている。私はそのとき初めて、メキシコ市民の生活に触れたように思った。そして、周りのアベックのように、私も古女房の肩を抱いて歩きながら、この都は、星が美しいと思った。(三浦朱門)
- ◇ 片言でもスペイン語を話せれば、メキシコ人はたちまち「お前はアミーゴだ」とくる。メキシコ市で買い物をするときは、正札は常に見当たらないので・・・
- ◇ 大繁盛の日本人歯科医。

ペルー

- ◇ ペルーはインカ帝国の栄えた中心地だった。リマの文明を築いたインディオを皆殺しにしたスペインの征服者ピサロ王は・・・古い寺院の倉庫には虐殺したインディオの骨がうずたかく積み重ねられ、頭がい骨やろっ骨、手足がバラバラにされて、カサカサとはかない音を立てる。ピサロ王のリマは砂の上に築かれたのではなく、虐殺したインディオの骸骨の上に花開いたのだった。
- ◇ 先祖の文明から隔絶されたインディオの娘。大きな風呂敷包みを背負う姿は、はかなく滅びた栄光を思わせる。貧しさと無気力が付きまとって、輝きを失った濁った眼は、未来を失っている。道端にうずくまるインディオの無気力な表情には滅びゆく民の面影しかない。

ボリビア

- ◇ ボリビアのラパスは南米のチベットとも言われている。最新の自動車が走りビルが立ち並ぶラパスから 2, 30 分も走ると、そこは何百年来も変わらぬであろう、はるか過去の生活に連れ戻されていく。アドベに草ぶきの家が点在し、羊飼いのインディオの少年がぼろのマントを着て裸足で羊を追っていく。歴史の歳月が凍りついてしまったようにさびしく・・・

- ◇ 現在、ペルーとボリビアではメスティソは人口の 3 割以上を占める。ペルーのインディオが人口の 46% (500 万)、ボリビアが 53% (200 万) になっている。
- ◇ ガラパゴス諸島——群島は大小 13 の島と数十の岩礁からなり、総面積は千葉県くらい。そこに 2000 以上の噴火口が穴をあけ、黒、茶、赤の溶岩が島を覆い尽くしている。頭の上には灼熱する赤道の太陽、足元は鉄のやすりのような溶岩、そして周りの海は遠く南極海から北上するフンボルト寒流である。
- ◇ 巨大なゾウガメの群れ、海岸の岩を埋め尽くすほどのウミトカゲの大群、肩先にも来てとまる小鳥たち、赤道直下の太陽の下に遊ぶペンギン……牛、馬、犬などの哺乳類が地上に出現する前の爬虫類と鳥類の世界、前世紀の姿がこの島には残っている。

エクアドル コロンビア キューバ ドミニカ カリブ海

- ◇ エクアドルがバナナならコロンビアはコーヒー。キトにある赤道標は 2800 メートルの位置。気温は一年中、摂氏 14 度で、「常春の市」といわれる。
- ◇ キューバ——お色気たっぷりの社会主義国。革命前にあったナイトクラブが今でもそのまま残っている。
- ◇ アメリカ嫌いの日本好き——1964 年、東京オリンピックの入場式の際、第 24 番目に入場してきた黒のブレザーコートを着た選手団は、正面貴賓席の前まで来ると、胸のポケットから一斉に日の丸の小旗を取り出した。この 24 番目の選手団はキューバであった。
- ◇ ドミニカ——サントドミンゴは“新世界”最古の都市となった。コロンブスの遺品を集めた博物館……
- ◇ カリブ海諸島は、人種的に見て、およそ世界中の血が混じったかと思われるほど混血地帯だ。人種的偏見はないし、観光地として栄える要件が揃っている。

ブラジル

- ◇ サンパウロに住んでみると、右端はイタリア人、左隣りはドイツ人、向かいにはアラブ人、裏はポルトガル人といった姿がごく当たり前になる。だから、人種とか民族の問題に神経をとがらせる人はこの町には住めない。
- ◇ 広大なアマゾンでは川が自然と通路になる。

韓国・北朝鮮

- ◇ 50 年前の記述に「創価学会まである現在の韓国」……天理教、立正佼成会、創価学会の信者が増えていく。特に勢力の著しいのが創価学会で……
- ◇ 軍の信頼を受ける朴正ヒ大統領。朴大統領は直情径行の人。人情家だが半面、不正事件には潔癖である。軍の信頼を受けている限り、朴政権の安定度は高い。
- ◇ 無窮＝ムクゲ＝無窮の繁栄を表す国家
- ◇ 50 年前の北朝鮮についての記事 (映画監督) : ……整然とした広い街並み、いたるところにある遊歩道や公園、そして解放前は貧民の巣窟で会ったと言われた場所が美しい公園に代わり、劇場や体育場等に変わっている……北朝鮮は日増しに豊かになりつつあるように思われた。老人と子供は大切にされている。まだ貴重品である毛のオ

ーバーも子供たちには真っ先に支給された。・・・平壤に限らず、どこに行っても街も公園もきれいなのに驚く。

- ☆ <写真キャプション>人民と歩む金日成首相。抗日人民革命軍を率いて日本の36年にわたる朝鮮支配を終結させた金日成は、朝鮮戦争後、灰じんと化した北朝鮮にあって、次々と経済計画を打ち出し、素晴らしい指導力を発揮し、現在の人民共和国を築いた民族的英雄といえよう。

以上、取り上げた国と数もアンバランスで記事量も違っていますが、古くなった写真冊子を棄てる前に急いで抜き書き（パソコン入力）したものでご理解ください。現在と変わっているもの、変わっていないもの等を楽しんでいただければ嬉しいです。